



賛助会員・機関誌購読者のみなさまへ

「3.11 からの出発」 活動のご報告 No.2

松岡 享子

4月に「3.11 からの出発」と題して、東京子ども図書館の災害復興への取り組みについてお知らせし、わたくしたちが行おうとする活動についてご理解とご支援をお願いしましたところ、それに応えて、大勢のみなさまから、はやばやとご寄付が寄せられました。その額は、6月27日現在、8,566,848円になっております。ほんとうにありがとうございました！ 厚くお礼申し上げます。

みなさまのお気持ちを背に、まずは現地を訪ねることからと、6月20日から23日にかけて、小関、内田、松岡の3人で、主に岩手県の被災地に行つてまいりました。今回の訪問は、盛岡にあるNPO法人「うれし野こども図書室」に全面的にお世話になり、全行程を代表の高橋美知子さんにご案内いただきました。まず陸前高田に行き、そこから、海岸沿いに大船渡、釜石、大槌、山田を経て宮古まで行きました。

陸前高田は、広域にわたる被災ということもありますが、市庁舎も、その近くにあった市立図書館も全滅し、その上、図書館、教育委員会の職員がほとんど津波の犠牲になるという無惨さで、被害という点では最も甚大と思われました。うれし野こども図書室は、震災直後から、地元のおはなしのグループと協議しながら、ここに、子どものための小さな図書室を設置することを考えてこられました。陸前高田には“おはなしペパン”というグループがあり、お隣の大船渡には“おはなしころりん”というグループがあり、これまでもうれし野こども図書室と連携しながら、地道な活動をつづけてこられました。ここに民間で子ども図書室ができれば、将来的に見ても、大きな力になると思われまふ。この計画は、具体化するためには、まだ数々の難問を克服しなければならないでしょうが、東京子ども図書館としては、その成り行きを見守り、必要に応じて支援することを考えたいと思っています。

今回の訪問は、わたしたちに何ができるかを考えるために、まずは現地の状況を知つて、地元で、子どもと本のために活動しておられる方々の声を聞こうというのが目的だったのですが、思いがけず、陸前高田市立小友（おとも）小学校で、子どもたちにお話をする機会が与えられました。ここは、2009年に「おばあさんのいす」のおばあさんがお話に訪れた、以前からご縁のある学校です。校舎の1階は津波の被害にあいましたが、わたしたちが訪れたときには、すでにきれいに片付いており、ここには、校舎を失つた小友中学校（在籍生徒36名）がはいつていました。小学校は、2階と3階を使つており、図書室も無事でした。

お話は、この図書室で行われました。全校生徒87名（幸い今回の災害ではひとりの犠牲者も出ていません）の子どもたちに、東京子ども図書館の子どもたちが5月5日に作つたおすすめの本を記したカードと本を見せ、松岡が、そのカードにあつた『番ねずみのヤカちゃん』のお話を語りました。話の最中に地震があつたというのに、語り手はまったく気づかずじまい。でも、図書室は、たしかに子どもたちの笑いで揺れました！

ここには夏休み前にもういちど行つて、時間が許せば子どもたちにお話をし、ひとりひとりに好きな本を選んでもらつて、うちもつて帰つてもらおうと思っています。小友小学校には、できればこれからも定期的に訪問をつづけ、図書室の整備や、子どもたちへの働きかけなど、学校側の希望にそつた活



動を展開できればと願っています。ゆくゆくは同じ校舎にいる中学校にも、読書活動の手助けができたらいいと思っています。

大船渡の「おはなしころりん」は、すでに自力で「移動図書館車」を準備、ダンボールに本をいれて、巡回をはじめています。ここからは、本がほしい、また、一緒に働いてくれる仲間をふやすための「ボランティア講座」を開いてほしいという要望が出されています。本は要望を聞いて送り、講座は、回数、方法等をよく打ち合わせて、今年度内にも実現させたいと思っています。

今回の現地訪問の結果、わたしたちの活動は、岩手県を中心に、現地のボランティアの方々と協力して行うことになりそうだという見通しがたちました。盛岡からの帰り、仙台に途中下車して、仙台の文庫や、親子読書や、民話の会などの主だった方々からもゆっくりお話をうかがうことができました。そのとき、ボランティアとして各地から寄贈された本の整理に当たった方から、たくさん届く本のなかには、使い道のない本がたくさん含まれていることを嘆く（というより憤る）声が聞かれました。「本棚整理」の好機とばかりに無責任に送られてきた本が、被災者に不必要な労力と心理的負担をかけている現状を苦々しく思い、このようなときだからこそ、それを手に取る人のことを思い浮かべながら、ていねいに本を「選ぶこと」が大切だと痛感しました。

そのこともあって、わたしたちは、もう完成間近になっている基本蔵書目録を活用しつつ、蔵書を失った子ども文庫、学校図書館などが、これから本を集めていくときの参考になるブックリストの作成にとりかかりました。第1集は100冊、つづいて第2、第3……と、とりあえずは第10集まで作り、全体で、絵本、フィクション、ノンフィクション、その他の本のバランスがとれた小規模図書室の基本蔵書になるようなものをと考えています。おとな子どもも含めて、被災地の人たちには、ほんとうにたのしくて、役に立ち、心に深く残って、くり返し読んでもらえるような本を送りたいものと思います。

みなさまには、これからも新しい展開があるごとに、随時お知らせをするつもりですが、まえにもお話ししたように、この活動は先の長いものになりますので、みなさまにはぜひひきつづき関心をお寄せくださって、財政面を含め、いろいろとお助けくださいますようお願い申し上げます。

(2011年7月14日記)

●お知らせ

以下の通り、今回の被災地訪問の報告会をいたします。どうぞ、ご自由にお出かけください。事前の申し込みはいりませんが、道順の分からない方は、東京子ども図書館までお電話ください。

日時：2011年7月26日（火） 13時半より14時半まで

場所：松の実ホール（中野区江原町3-17-10）

報告会の後、お時間のある方には、残っていただいて、ご一緒に、被災地の子どもたちに贈る小さな指人形を作りたいと思っています。準備の都合がありますので、参加ご希望の方は、その旨、館までご連絡くださると幸いです。

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 郵便局 口座記号番号 00130-9-115393

加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館